

# 読書活性化フォーラム（空知ブロック）概要

## 令和3年1月19日（火）（オンライン開催）

### 1 テーマ

「地域全体での読書活動の推進について」

### 2 シンポジスト

全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー	佐藤敬子氏
滝川市立図書館長	深村清美氏
南幌町読み聞かせサークル代表	中鉢須美子氏
新十津川町立新十津川小学校学校図書館司書	熊谷朋子氏

### 3 提言内容等

#### ○ 佐藤敬子氏

- ・学校図書館は「教育課程の展開に寄与する」という目的があり、授業や読書指導に活用されなければ、学校図書館の存在意義は薄れてしまう。
- ・学校図書館の館長である校長や司書教諭、学校図書館担当教諭、学校司書などが推進役となって、学校図書館を活用した授業づくりなどを学校全体で取り組むことが大切である。
- ・「読書活動」は、物語や伝記などの「読み物」を読むことをはじめ、事典や辞書、図鑑などで「調べる」ことも含まれることから、「読書活動」の概念を大きく捉えてほしい。
- ・単に相手に頼るだけでは「連携」しているとは言えない。関係者間それぞれの役割を確認し、共通理解を図った上で、お互いの顔が見える連携を図ることが大切である。

#### ○ 深村清美氏

- ・PTAやボランティアに対する本の修繕に係る講習や読み聞かせの講習、蔵書の分類付け、授業で活用できる図書の紹介など、市内小・中・高等学校のニーズに合わせた学校図書館運営支援を行っている。
- ・地域全体で読書活動を推進するためには、関係者間の垣根を低くする必要がある。そのためには、市内の学校と公立図書館との連携はもとより、近隣の市町村等、広域的にネットワークを広げ、つながることが大切である。

## ○ 中 鉢 須美子 氏

- ・乳幼児期の読み聞かせ体験は子どもの創造力を養い、読書習慣の定着につながる。
- ・子どもが文字を読むことができる年齢になると、自分から読み聞かせを敬遠するケースも見られる。そういった場合は、子どもから保護者に読み聞かせをしてもらう時間を設定し、子どもの頑張りを丁寧に褒めるなどし、文字を読むことに自信をもたせることが大切である。

## ○ 熊 谷 朋 子 氏

- ・町内小・中学校の学校図書館と町図書館の蔵書管理システムが連携しており、児童生徒が必要な本を探したり、図書館から学校へ、あるいは学校間で貸出す本の運用を効率的に行ったりできるような体制を構築している。
- ・町図書館では、町民に読書通帳を配布しており、放課後、小学生が町図書館で記帳する姿をよく目にする。中学生は部活動等により開館時間内に記帳することが難しいため、預かり箱を用意し、読書の記録ができるように工夫している。
- ・新十津川町は家庭・地域・学校の連携が進んでいると認識している。学校図書館が一層活用されるよう、小・中学校ともに様々なアプローチが必要であると考えている。



【シンポジストによる読書活動の事例紹介の様子】